

2022年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 行動科学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ _____ ）
出題の意図	<p>問1 人間の社会の特性を進化論的に捉えるために必要な知識と論述する力を評価する</p> <p>問2 統計分析の結果を解釈するために必要な知識を評価する</p> <p>問3 行動科学の英語論文を正確かつ素早く読み解く力を評価する</p> <p>問4 行動科学の基本的概念に関する知識を評価する</p>

2022年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 行動科学 全2枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 2枚、解答用紙 4枚を配付する。

以下の問1から問4までの全ての問いに答えなさい。解答は、問ごとに別の解答用紙を用い、冒頭に問番号を記入しなさい。

問1 ヒトの社会における科学、技術、音楽、芸術といった情報の体系は、他の動物種には見られないほど比類なき発展を遂げてきた。その発展には、累積的文化進化が大きく寄与してきたと考えられる。このことについて、以下の①と②の問いに答えなさい。

① 累積的文化進化とは何か。

② 累積的文化進化を可能としたヒト特有にみられるコミュニケーション能力あるいは手段には何が挙げられるか、他の動物との比較を交えつつ述べなさい。また、その能力や手段の獲得によって、具体的に何が可能になった結果として累積的文化進化が促進されたと考えられるかを説明しなさい。

問2 以下は、ある母集団から無作為抽出した100名のデータの分析結果である。このデータには3つの連続変数X, Y, Zが含まれている。

- ・ まず、XからZを予測する回帰モデル($\hat{Z} = a + b_X X$)を作って分析したところ、 $b_X = 1.31$ ($t(98) = 4.72, p = .00$)という推定値が得られた。
- ・ 続いて、XとYからZを予測する重回帰モデル($\hat{Z} = a + b_X X + b_Y Y$)を作って分析したところ、それぞれ $b_X = 0.30$ ($t(97) = 0.20, p = .14$)、 $b_Y = 0.51$ ($t(97) = 11.76, p = .00$)、という推定値が得られた。

このとき、変数XとYとZの間には、どのような影響関係があると解釈できるだろうか。変数間の影響関係を示すパス図を示しながら、2つ以上の妥当な解釈を述べなさい。

次のページに進む

問3 以下の英文は、ある文化心理学論文の序論の一部である。この内容に基づき、次の①から③の問いにそれぞれ簡潔に答えなさい。

- ① ここで指摘されている先行研究の限界とは何か。
- ② 本研究は、その限界をどのような方法を用いて乗り越えようとしているのか。
- ③ 本研究の方法を用いると、なぜ①で指摘した限界を解決することができるのか。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Uskul, A. K., Kitayama, S., & Nisbett, R. E. (2008). Ecocultural basis of cognition: Farmers and fishermen are more holistic than herders. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 105(25), 8552-8556. doi:10.1073/pnas.0803874105 の p.8552 の一部抜粋・改変

問4 以下の4つの語句をそれぞれ説明しなさい。

- ① 誤信念課題 (False-belief task)
- ② 基本的帰属錯誤 (Fundamental attribution error)
- ③ 間接互惠性 (Indirect reciprocity)
- ④ システム正当化理論 (System justification theory)

以上